

Official trip report on ASEAN Design Selection 2017-18/Trade in Creative Industries

アセアンデザインセレクション2017・18

出張報告書

国名と都市：カンボジア、プノンペン

出張者：貿易投資部 ビラック部長代理、伊藤プロジェクト担当官

リソースパーソン：南雲勝志（ナグモデザイン事務所 代表取締役）

青木史郎（公益財団法人 日本デザイン振興会 参与）

出張期間：2017年8月28日～31日

● 事業趣旨

ASEAN 諸国におけるクリエイティブ・インダストリー（CI）促進事業は2013年に発足した。この事業においては、アニメ、ソフトウェア、ITを含むコンテンツインダストリー分野で活躍する企業に焦点を合わせ、東京ゲームショーに出展した経緯がある。しかし、UNCTADでは2004年からこの分野に着目し、次のようにのべている。「クリエイティブ・インダストリーが、新しい財を創作する領域に途上国を飛躍させる新機会をもたらすことができる。この産業は世界貿易の最も力強い領域にあり、高技術、付加価値という意味においては、中小企業の強固な雇用関係をもたらすことができる。（UNCTAD XI High Level Panel on Creative Industries and Development (12 - 13 June 2004, São Paulo)より一部抜粋）」

この枠組みの中で、アセアン諸国のクリエイティブ・インダストリーにおける財の創作、つまり高い付加価値生産の原動力を広げ、中小企業の雇用機会を生み出し、国際貿易から利益を得る結果につなげることを目的とし、コンテンツ産業を含むソフトデザイン、プロダクトデザイン及びサービスデザインの振興に対象を広げた。この為公益財団法人日本デザイン振興会（JDP）と連携し、JDPの付与するグッドデザイン賞（G-mark）を、アセアン10カ国の企業に付与し、アセアン企業の国際展開を支援することとなった。また、リソースパーソンによるセミナー・ワンデイクリニックを通して、デザイン振興または、デザインに対する新しい考え方を共有し日本市場への訴求をはかる。

● 訪問内容

JDPが行うグッドデザイン賞選考基準に則り、選抜された審査員をアセアン諸国に派遣し第一次審査を実施。

セミナー・ワークショップ及びワンデイクリニック

場所：サンウェイホテル、プノンペン

参加人数：55名

候補企業数：23企業

企業訪問

訪問企業数：6企業



● 第一審査結果

合格：4企業

ウーマン・フォー・ウーマン (Women for women)

評価のポイント「活動」ものづくりを通して地域就労機会を提供。地域の女性の終了確保や人材育成機会の提供など。この企業の支援により大学に進み、同企業で活躍しているなど、地に足のついた活動を展開。シルクの質も水準以上と評価。



南雲審査員のコメント：カンボジア社会が抱える女性と地域の課題を、商品作りをとして解決するというきわめてレベルの高い活動である、その実践は女性に生きるエネルギーを与えてくれるデザイン。

ロータス・スシルク (Lotus Silk)

評価のポイント：「ビジネスの創出」使用しなくなった素材に新しい価値を与えるビジネスづくり。余り布の使用で多様な女性用ウェアを展開。素材の使い方もたくみで、デザイン・品質も一定水準以上。ショップでオーダーメイドにも対応できる体制を整えている。ベンチャービジネスとして評価。特にストーリー性のある展開と無理のない作り方を評価。



南雲審査員のコメント：リサイクル、リユース素材を使用しながらも独創的で魅力的な商品づくりを可能にしていることと、顧客との対応、店舗に連動したものづくりのプロセスそのものに無理がなく必然性を感じる。

クメール・クリエーション (Khmer Creation)

評価のポイント：「ビジネスの創出」小規模企業による国際的なビジネスの展開。

ワッシャやボタン、研磨剤など使用されなくなった円形素材をシルク糸で飾るリサイクルアクセサリ。特定の工場や工房を持たず、各家庭婦人の内職という工程で一定の基準をみたしている。「零細企業の国際展開の可能性」を示したことと「カンボジアの若い起業家支援」という側面とで評価。



南雲審査員のコメント：社会進出の機会に恵まれない女性のための子育て支援を可能にする内職的ビジネスを、海外デザイナーとのコラボレーションにまで引き上げたところを評価。今後のビジネスの可能性を感じる。

サバイ・オスジャ (Sabay Osja)

評価のポイント：「商品」 デジタル絵本

専門的な教育も受ける環境には若者たちが、自力で立ち上げたアニメスタジオによる自主作品。クメール文化という豊かな背景をもちながら、内戦で分断された社会的背景を持ち、「民話」の伝承がかなわなくなった。「クメールの民話」をアニメ化し、さらに、アプリとして提供することで、子供たちへの文化の継承、拡散が行われたことを評価した。自国文化への貢献と人材育成への波及効果もある。



南雲審査員のコメント：海外に頼りがちだったアニメ文化であったところ、「カンボジア昔話」とも言える自国の伝承を、若いエンジニアが習得した IT 技術を駆使して伝えている新たなビジネスモデルである。

● 南雲勝志審査員からの総評：

カンボジアが抱える問題について、ものづくりを通して解決していくという取組みの中から生ま

れたデザインは、単に消費のためのデザインではない社会性がある。それはデザインにおける大切な要素そのものであり、それを見失うと売るための商品づくりに走り本質を失う。しかし、カンボジアではその軸を失わない、商品開発にかかる意気込みをかんじる。特にカンボジアの女性においては、仕事に対する責任感と行動力は素晴らしいものがあると思う。カンボジアのセンスの良さと社会性を軸に、将来を見定め、国際的に通用する持続可能な商品作りを目指してほしい。

今後期待することは、個人あるいは企業ごとのものづくりに対する意識がとても強く、互いに競争意識となり切磋琢磨していることが伝わってくる一方で、今後は互いに協力しあい、また異業種をふくめたコラボレーションをするなど、広がりをもつと良い。また、現在はテキスタイル産業が中心であるが、自分たちの生活を豊かに楽しくしていくという視点で捕らえていく必要がある。たとえば、日常を豊かにし、快適に暮らしていけるような家具や日常生活用品などの開発を試みる。そこには、生産者だけでなく市民全体に人に優しいデザインが拡散し、カンボジアのデザイン振興を飛躍的に伸ばせる可能性がある。民間レベルでは不可能なこともあることから、行政と協力し合う事も必要。カンボジアの人々、素材、技術を用いたカンボジアのためのデザインが生まれたとき、本当の意味でのクメールデザインとなり世界に通用すると期待している。

- 青木史郎氏 (JDP) の総評 :

グッドデザイン賞は、「デザインを通じて生活や産業など社会全体を向上する」というビジョンを上げており、表面的な評価ではなく、それが生み出された背景、意図、プロセス、商品の質、さらにその波及効果までを一連のストーリーとして受け止め、評価している。こうした視点から、カンボジアのデザインは、日本アセアンセンターと連携してきた「メコンデザインセレクション賞」の付与などもあり、布製品など生産する工芸的企業の商品の質は向上している。この点では国際競争力を持ちえる。課題は「その先」をみることである。つまり、ものづくりを通じて、社会的弱者を含める地域に、雇用をつくり地域全体を発展させるというモデルが限界にきている。

カンボジア商業省からは、メコンデザインセレクション賞のその後についての説明を求められた。当時多摩美術大学で教鞭を取られていた日本人デザイナーで二本木先生が、カンボジアの企業とコラボしたことで、カンボジアに移住したことなどを説明し、コラボした商品の販売実績に加えそれを契機として生まれた新しい創造を評価してほしいと説明した。同省幹部からは2014年受賞の「ヨガマット」を期待していたが、生産者が継続できない状況になったのは残念で、急遽調査してつなぎ止めたなどの発言があった。



- 全体の総論 : 日本アセアンセンターは JDP と連携して、メコン地域のデザイン振興事業、「メコンデザインセレクション賞」を付与するために、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナムの4カ国にむけてデザイン振興支援をしてきた。2013年のカンボジアの受賞者は2社、2014年の受賞者は6社、さらに日本人デザイナーとコラボレーションをしてブランディングを試みた企業が4社あり、確実にデザインの質に向上がみられた。青木 JDP 参与のコメントにもあるように、日本人デザイナー夫婦がカンボジアに移住して、カンボジアの企業との新たなものづくりをスタートアップさせたことは当センターの実績として上げられる。ヨガマットも含め各受賞者の今後のフォローアップも引き続き行っていきたい。